

2021年度 矢向あけぼの保育園 自己評価

記入日 2022年 3月31日			
	自己評価の観点	評価項目	振り返り内容
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮	①子どもの最善の利益の考慮を意識して保育にあたっているか？性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮しているか？国や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮しているか？ ②自分の園の保育方針・保育目標を他者に伝えられるか？保育方針・保育目標に沿った保育を意識的に行っているか？	①子どもを人格を持った一人の人間として接し、性差での先入観など固定観念を持たず、一人一人の個性を尊重し保育を行うようにした。幼児クラスでは絵本やお話などを通して、さまざまな国や文化に触れる機会を持つようにした。 ②一人一人の職員は保育方針・保育目標を理解し、日々の保育の中で目の前にいる子どもたちに引きつけた実践をめざし、努力した。保育理念や子どもへ対応、子どもとの関わり方などを職員間で確認し、共有したり、より積極的に伝えていけるとよかった。
	① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標		
II 子どもの発達援助	1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場 ① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人との関わりを育む環境	①子どもの健康管理は適切か？感染症対応のマニュアルがあり、理解し実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自身が、主体的に学び・生活できる環境設定（物的環境・人的環境）を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？	①視診や触診などで個々の健康状態を把握し、送迎時には家庭と細かく連絡をとり、体調の変化に早く気付けるようにしてきた。日頃から看護師との連携し、相談したり、季節ごとに子どもたちへの手洗い・うがい・咳エチケットなどを指導してもらった。安全対策については、マニュアルを理解し、月一回の避難訓練を行ってきた。 年1回の不審者対策訓練を行った。 ②検温、手指消毒等新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、保護者にも可能な範囲で家庭保育、保育時間の短縮の協力をお願いした。 ③当園が最も大切にしている子ども自身が選択し、遊びたいという「主体性」が引き出せる保育環境づくりの力を入れてきた。月齢や年齢、季節に応じて、玩具の種類や数を見直し、入れ替えたりした。 ④保育士との信頼関係（乳児は担当制）を基本に、好きな遊びを見つけて遊びこむ。保育士との信頼関係を元に友だちとの関係を広げ、深めていくことを意識してきた。
	2 生活と発達の連続性 ① 子ども観・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性	①子ども観・発達観をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し、保育を実践しているか？ ②子ども一人ひとりに応じて保育目標を設定しているか？子ども一人ひとりの発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、一人ひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？	①クラス担任同士での話し合い、乳・幼児会議、職員会議での話し合いを大切にまで進めてきたが、各自が思っていることを自由に話すことはできたが、園全体で共有することができない部分もあった。共通認識のもとに保育実践を進める努力をしてきた。 ②子ども一人ひとりの目標を立て、個々にあった声かけ、対応をする努力をしてきた。個々の発達状況、成長の過程を記録してきた。 ③一人ひとりの発達・特性を理解し、また家庭的背景なども考慮し、他児と比較したりはせずに保育をしてきた。 ④生活においては、一日の日課の流れ、日々の積み重ねを大切にしてきた。連続性を意識して計画を立てて保育している。
	3 養護と教育の一体的展開 ① 主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？	常に保育とは「養護と教育」が一体化しているものと意識して、保育実践をしてきた。 ①0歳児は、養護が中心になるが子ども自身が意識出来るよう言葉添えて丁寧に育児をしてきた。 ②1歳児については、身の回りのことを、大人に手伝ってもらいながら自分で試みようという気持ちを引き出す援助してきた。2歳児については、自分できたという達成感が持てるよう一人ひとりの状況に合わせて丁寧に援助してきた。③幼児クラスについては、身の回りのことが自分で出来るよう、年齢や一人ひとりの状況に合わせ、励ましたり、認めたり丁寧に声かけをし対応してきた。食事でのマナーに関しては、わかりやすく絵で表示したり、その子に合った場所を選んだりして正しい姿勢で食べると子ども自身が気をつけられるようにした。また、感染症対策を子どもなりに意識できるよう折にふれ伝えてきた。異年齢保育を通じて、年長児にあこがれを抱いたり、年少児に少し思やりの心を持って接したりが自然にできる環境を整えた。作業療法士や療育センターの巡回訪問を通じて要配慮児への対応を学ぶことができた。
	4 環境を通して行う保育 ① 保育の環境 ・ 人的環境 ・ 物的環境 ・ 空間 ・ 自然や社会現象等 ② 環境の構成・再構成	①子どもが快適に過ごせる環境（清潔・採光・換気・照明など）への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた環境設定を意識的に行っているか？身近な自然を通して感性を育み、さまざまな気づきにつながるようにしているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心がもてるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び（数・図形・言葉・文字など）につながるように工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構成や再構成をしているか？	季節に合わせて清潔で快適に過ごせるように環境の調整を行った。 ①感染症対策に各クラスに空気清浄機を購入し、設置した。毎日の清掃、テーブルや遊具の消毒を行ってきた。室内に泥、砂を持ち込まないようにするために、外遊び後の手洗い、足洗いを行うようにした。大雨の日以外は全クラス戶外遊びを行い、季節の自然に触れるようにしてきた。遊びの中で文学や環境認識、数のあそびなど取り入れてきた。ダンゴムシやカタツムリ、カブトムシ、青虫からちょうちんへの飼育、雨の日散歩、落ち葉・木の葉などの制作など季節に合わせた遊びを取り入れる中で子どもたちの探求心、好奇心を引き出す経験を増やした。 ②季節や成長に合わせて、遊具や絵本の入れ替え、保育室のコーナーを変化させた。
III 保護者に対する支援	1 家庭との緊密な連携 ① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任 ③ 子育てに関する相談・援助 ④ 保護者への個別支援 2 地域における子育て支援 ① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？ ②日常の保育を保護者に理解し援助してもらえようように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常しやすいうに努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？ 2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的に行っているか？ ②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？ ③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？	1、①乳児は連絡帳や登降園時に保護者とコミュニケーションを大切に行ってきた。幼児はクラスノートやホワイトボードで保育の様子を保護者に伝えてきた。コロナ禍で保護者の滞在時間を制限せざるを得なかったために、直接対話の時間が十分に取れなかった。誕生会をはじめ、行事の様子やクラスの子どもの生活写真を使い保護者に伝えることで、子どもと成長を共有してきた。③子育てに関する相談は日常的に担任が対応、必要に応じて、園長相談にのるようになった。 ④新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたいたので、保育参観・参加を実施した。時間短縮になったが個人面談も実施、保護者の話を聞いて一緒に考えたり支援した。配慮が必要な子どもには複数回の面談を実施し、丁寧な対応をこころがけた。 2、①園庭開放（夏は水遊び）、育児講座、交流保育の実施については、コロナのために限定的にはしまったが可能な範囲で地域に呼びかけ実施した。一時保育については、長期休園時の幼稚園児や乳児について、受けるようしていたが、新型コロナウイルスの影響で利用者は減少した。 0、1歳児の利用希望の電話は多かった。 ②幼児小連携行事での年長児の小学校訪問、地域子育て支援のイベントも中止となってしまった。
IV 保育を支える組織的基盤	1 健康及び安全の実施体制 ① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携 2 職員の資質向上 ① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修 3 運営・管理、社会的責任 ① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任	1、①園の保育理念・方針・保育課程などを正しく説明できるか？指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育課程に基づいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応ができるようにマニュアルがあり、理解し実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために、家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？2、①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知実行しているか？②個人情報情報の取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し、迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保護者から情報・意見を集めたり説明をしているか？	1、①例年は保育説明会や懇談会などを通して、保育理念・方針・保育計画などを保護者に向けわかりやすく説明してきたが、今年度はコロナの感染拡大が続き、実施できず、文書配布となった。②子どもの保健や衛生については、園の看護師に相談したり、マニュアルに沿って対応。マニュアルはすぐに見られるように、身近に置くようにしてきた。③戶外遊び、リズムあそび、体育など家庭の理解を得ながら子どもたちの体力づくりを進めてきた。子どもの怪我に関しては、嘱託医でもある汐田総合病院と連携をし、受診が必要な場合は保護者に連絡を合わせ、迅速な対応ができた。 2、①どの職員も子どもの最善の利益を第一に考えて保育にあたっている。会議では、誰もが発言できるような運営に心がけたが、発言がない場合があり、職員間に不信感が広がることもあった。 ②各自毎年自己目標を定め、年度末に振り返りを行った。③年度末に、園としての自己評価を行い、保護者に配布しまたホームページで公表した。④これまでは、土・日も含め、積極的に研修に参加し、自己研鑽を積んできたが、今年度は研修の機会が大幅に縮小をされてしまったがZOOMやWEB参加も推奨し、参加があった。 3、①法令遵守、個人情報の取扱には十分注意をしてきた。保護者からの要望や苦情については、「子どもにとっての最善の利益」を考えたうえで迅速に対応する努力をした。 ③施設長として、事あるごとに園の理念や方針について語ってきた。法人内で、理念や方針を深めていく主任・リーダー会議や研修を実施する計画であったがコロナのため実施できなかった。 意思決定にあたって、園長として、職員の事情、意見や要望を十分に反映するよう努力をしたができていないことがあった。新しくできた園庭については、職員の意見も取り入れ限られたスペースだが子どもたちが楽しく遊べるよう遊具の選定をした。